

## 今日のトピック

# トルコ中銀、2会合連続の利下げ

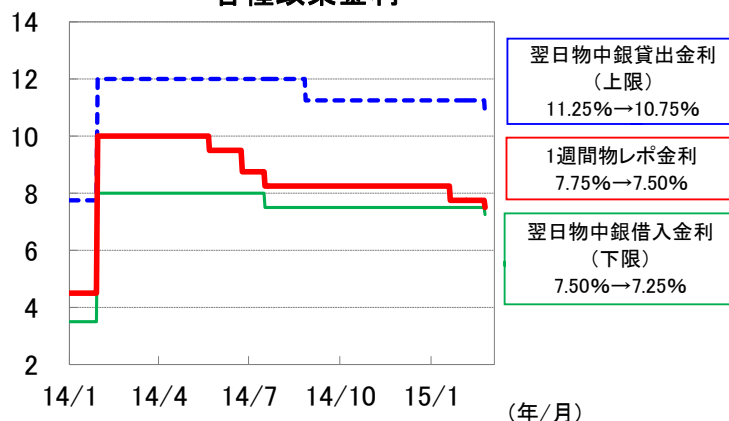
## ポイント1 主要政策金利を引き下げ

### 政策金利水準の正常化を進める

■トルコ中央銀行（以下、中銀）は24日、主要な政策金利である1週間物レポ金利を0.25%引き下げ7.50%に、金利誘導レンジの上限金利を0.50%引き下げ10.75%に、下限金利を0.25%引き下げ7.25%にすることを発表しました。

■中銀は、2014年1月にトルコリラの安定化を狙い、臨時の措置として各種政策金利を大幅に引き上げました。その後は利下げによる金利水準の正常化を進めており、市場では、中銀が前回1月の会合に続き利下げするとの見方が大勢でした。

(%) 各種政策金利



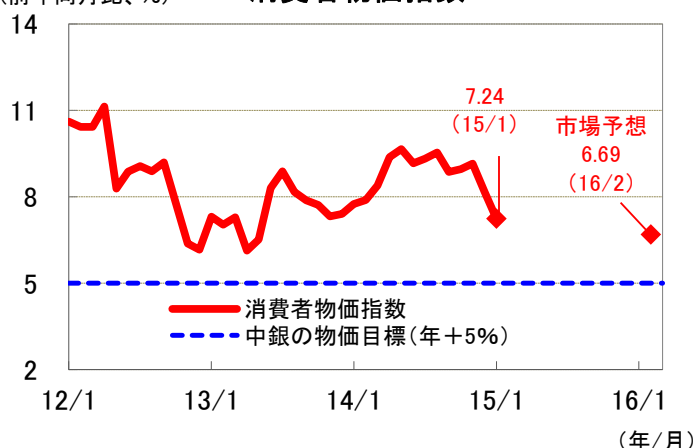
## ポイント2 物価上昇率低下などに対応

### 慎重に利下げを進める方針

■1月の消費者物価指数は前年同月比+7.24%と、前月の同+8.17%から低下し、市場の1年後の予想も同+6.69%とさらに低下する見込みになっています。中銀は、これまでの金融引き締め策の効果などから、物価の基調は落ち着きつつあると見ており、利下げ継続が適当と判断したと見られます。

■ただし中銀は、野菜などの食品や原油の価格変動が大きいことや、足元の物価上昇率や市場予想が目標（年+5%）と比べてまだ高いことなども考慮し、利下げ幅を小幅にとどめました。

(前年同月比、%) 消費者物価指数



(注) 各種政策金利は2014年1月1日～2015年2月24日。  
消費者物価指数は2012年1月～2015年1月。  
市場予想は、トルコ中央銀行が2015年2月20日に発表した調査結果。  
(出所) Bloomberg L.P.、トルコ中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

## 今後の展開 利下げ継続には、リラの安定などを通じた物価見通しの低下が重要

■中銀は、物価見通しが顕著に改善するまで、現行の慎重なスタンスを続ける考えです。声明文では、前回と同様に、市場の物価見通し、足元の物価動向、その他物価に影響を与える要因を注視する方針が示されました。

■物価上昇率や物価見通しが低下傾向にあり、中銀は今後も利下げによる金利水準の正常化で景気を支えたいと見られます。さらなる利下げの継続には、リラの安定などを通じ、市場の物価見通しが一段と低下することが重要になりそうです。

### ここも チェック!

2015年02月06日 トルコの物価動向と金融政策  
2015年01月21日 トルコの金融政策(2015年1月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。